

目次

目次	1
ごあいさつ、助成金の概要、スケジュール	2
選考基準、選考委員、応募状況、ブラッシュアップ講座、事前説明会	3
公式サイトオープン、贈呈式記念写真	4
2013年度 助成活動・団体・助成金額一覧表	5
事業報告 新規採択団体 22	6～13
事業報告 継続2年目団体 15	14～18
コラム「平成25年度しが生物多様性大賞 2事業が受賞」	13

ごあいさつ

公益財団法人平和堂財団は、2012年に平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」を創設して、NPO法人、市民活動団体、学生団体等が行う琵琶湖およびその流域の自然環境の保全活動に対して助成を開始しました。

2013年度には京都府へと対象地域を広げたところ64団体からの応募がありました。初年度の事業を検討した結果、環境保全活動と応募スキルアップのための講座を開催、また応募を検討している団体の皆様を対象とした事前相談会を開催するなどブラッシュアップ事業も行いました。

このたび、2013年度の事業が滞りなく終了し、「平和堂財団環境助成金事業 夏原グラント活動報告集」をお届けすることになりました。滋賀県・京都府内の環境に関わる多様な活動について、37団体の成果を、本冊子でご報告させていただきます。

助成金の概要

名称 平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」

※グラント「grant」とは助成金という意味

●対象となる事業

この助成金の対象となる事業は、滋賀県内・京都府内で実施される水質保全、森林・里山保全、水源の森保全、河川や湖等の環境保全、生物多様性維持等、内容が先進的で他の団体のモデルとなるものです。

(1) 環境保全に関する実践活動

広く市民の参加を得て行い、活動の普及が期待される水質保全活動・河川環境保全活動、その他自然環境の保全に関する実践活動

(2) 環境保全に関する教育啓発・人材育成活動

広く市民を対象とする環境保全に関するイベントの実施、学習会の開催、その他環境保全に関する啓発、知識の普及、人材育成の活動

(3) 環境保全に関する調査研究活動

(1)または(2)の活動推進に資する調査研究活動。ただし、調査研究活動は実践活動に結びつくものとし、学術的な活動は対象としません。

●助成金の対象となる団体

事務所を滋賀県内・京都府内に有するか、または滋賀県内および京都府内で活動している環境保全活動に取り組んでいるNPO法人、市民活動団体、または学生団体

●助成金の額

- | | |
|------------------|-------------|
| (1) NPO法人、市民活動団体 | 1件あたり上限50万円 |
| (2) 学生団体 | 1件あたり上限30万円 |

スケジュール

2012年	12月 3日	募集開始	説明会の開始
2013年	1月 31日	募集締め切り	
	3月 上旬	第1次選考会	
	3月 24日	第2次選考会・公開プレゼンテーション	
	4月 13日	贈呈式	(クサツエストピアホテル)
	4月 1日から翌3月 31日まで	各団体の助成金事業実施期間	

選考基準

- (1) 滋賀県内・京都府内の環境保全や地域創造に寄与すると認められること。
- (2) 他の団体のモデルとなるような先進的なテーマ設定や事業展開が期待されること。
- (3) 県民・府民の自主的な環境保全活動につながる波及効果が期待されるなど、成果が広く市民に還元されること。

選考委員

仁連 孝昭	滋賀県立大学理事・副学長	
西野 麻知子	びわこ成蹊スポーツ大学教授	
山口 洋典	立命館大学サービスラーニングセンター准教授	
永井 美佳	大阪ボランティア協会事務局次長	
山田 脩治	株式会社 ヤマプラ代表取締役	(敬称略)

応募状況

応募団体総数	64団体
助成団体総数	37団体 *うち新規助成 22団体、継続助成 15団体
助成総額	11,286,000円
団体の活動分野	環境保全に関する実践活動 35団体 環境保全に関する調査研究活動 2団体

ブラッシュアップ講座

夏原グラントへの応募を目指す団体だけでなく、日頃から環境活動に取り組んでいる方、環境問題に興味のある方などを対象に、今一度、活動をブラッシュアップしていただくことを目的に開催しました。選考委員の3名に講師として以下の内容で講演していただきました。(いずれも参加無料)

- 第1回 9月24日(火) 19:00~21:00
「環境問題のトレンドから考える
～市民活動に求められる環境保全活動とは～」
講師:仁連孝昭さん(滋賀県立大学理事・副学長)
会場:草津市市民交流プラザ(南草津フェリエ内)
- 第2回 10月5日(土) 13:30~16:30
「分かりやすい企画書の書き方」
講師:永井美佳さん(大阪ボランティア協会事務局次長)
会場:草津市立まちづくりセンター
- 第3回 10月15日(火) 13:30~15:30
「生態系にやさしい環境保全活動とは?」
講師:西野麻知子さん(びわこ成蹊スポーツ大学教授)
会場:草津市立まちづくりセンター



事前相談会

「夏原グラント」への応募を考えている団体のみなさまを対象に、事前相談会を開催しました。応募書類の書き方、アピールできる事業企画書の書き方、予算書の書き方、公開プレゼンテーションなどについて、個別相談で対応しました。相談には夏原グラントの運営を行っている、しがNPOセンターのスタッフがあたりました。

- 開催日 10月19日(土) 米原公民館(滋賀県)
10月22日(火) 草津市立まちづくりセンター(滋賀県)
11月 9日(土) JR宇治駅前市民交流プラザ「ゆめりあうじ」(京都府)
11月12日(火) Flag三条(京都市)

公式サイトオープン



夏原グラントの概要や助成団体の活動紹介のため、2013年9月に公式サイトをオープンしました。

■夏原グラント公式サイト <http://www.natsuhara-g.com/>

ここにアクセスすれば応募したい方向けの情報として助成金募集期間や概要、また募集要項のダウンロードもできます。また、採択団体の方も書類やロゴマークをダウンロードできるようにしています。採択事業の活動現場に事務局が出向き取材して、活動レポートを掲載しています。写真を豊富に掲載し、活動のようすを生き生きとお伝えするように心がけています。

このサイトは、滋賀県地域情報化推進会議が主催する「滋賀Web大賞2014」の地域活動団体部門で優秀賞を受賞しました。サイトそのものが評価されただけでなく、採択団体の皆様の多彩で活発な活動がサイトを見る方に伝わったのではないかと思います。ぜひアクセスしてみてください。

贈呈式記念写真



公益財団法人 平和堂財団 第2回「夏原グラント」助成金目録贈呈式 平成25年4月13日 ③クサツエストピアホテル

2013年度助成団体一覧

新規採択団体	事業名
NPO法人 びわこ豊穡の郷	守ろう赤野井湾！オオバナミズキンバイ除去大作戦
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	天然更新試験地食害防止活動と植生調査
おうみこっとなつむぎ	「綿づくり」を通して「人の輪」を広げよう
ウォーターステーション琵琶の会	ウォーターステーション琵琶の会 環境啓発活動事業
ホタルの学校	みんなで守るホタルと川
八幡山の景観を良くする会	竹林・コナラ林の整備とナラ枯れ地への植樹で里山再生
特定非営利活動法人 フロンティア協会	京都の源流域を護る会
余呉トレイルクラブ	余呉トレイル林道整備事業
深泥池池畔林研究会	京都市・深泥池における池畔林伐採実験のモニタリング
特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都	里山再生保全事業（みささぎの森わくわくプロジェクト）
市民活動支援 レッツ栗東	里山保全及び山林資源の有効利用とその促進事業
清水山城楽クラブ	里山と遺跡のコラボ（木・愛LOVE）／清水山城でいくさサイズ
湖北古民家再生ネットワーク	土から刈り取り土に還す～茅刈りですなぐ伝統的自然素材の資源循環再発見プロジェクト～
しがの里山や川を美しくする会	和邇川流域の環境再生
久保川と天王山の森を守る会	ドングリの森作り
天若湖アートプロジェクト実行委員会	あかりがつかぬ記憶2013ワークショップ&ドキュメント
田村山生き物ネットワーク	カスミサンショウウオの保護に向けた生息場所（保護池）設置事業
特定非営利活動法人 碧いびわ湖	琵琶湖と暮らしのつながりの再生（みんなでつくる！暮らしの体験の場）
理想の森プロジェクト	鴨川源流の森林環境保全のための 市民参加型森づくりイベントの実施
NPO法人 瀬田川リバプレ隊	ふるさとの川（大石川）調査隊及び植生調査
いきもの多様性研究所	京都府和束町における、野生動物との共存を目指す、豊かな森復元モデル事業
琵琶湖お魚探検隊	環境保全に関する教育啓発、人材育成活動
継続団体	事業名
巨木と水源の郷をまもる会	巨木を育む豊かな森と水源の郷をつくるトチノキプロジェクト
二ナプロジェクト・ホタルン（カワコナ里親の会）	源氏ホタル「特別天然記念物指定地」の環境（ホタルンロード）整備と 浚渫河川へのカワコナの放流事業及びカワコナ養殖水路改修
琵琶湖博物館 はしかけ田んぼの生きもの調査グループ	「田んぼのエビ類（大型鰓脚類）」の生息と水田環境
草津でホタルを楽しむ会	湧水池を活かして、ホタルや生き物を観察できる水辺づくり
特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部	佐久良川周辺里地での貴重動植物の持続可能な保護活動の探索
特定非営利活動法人 妙理の里	ペレットストーブの普及で水源の郷を守る活動
白鳥川の景観を良くする会	桜並木の整備による憩いの散策路づくり
彦根雨壺山・護林会	千鳥ヶ岡公園（雨壺山）の荒廃緑地を「里山」に再生
一般社団法人 k i k i t o	びわ湖の森の間伐材買取事業
きぬがさ山「里山に親しむ会」	きぬがさ山系の登山道の整備作業と子供達の里山での自然体験学習
のとがわエコ水車の会	エコ水車で夜道も明るいまちづくり
NPO法人 愛のまちエコ倶楽部	里山と里地をつなぐ、地域内循環農業の再構築事業
特定非営利活動法人 子育て研究会	こんこん山の里山再生と森保全ワークショップ
環境レイカーズ	子どもたちによる五十年森再生活動
子ども活動サポーター会	コバノミツバツツジの郷づくり

夏原グラント2013年度の助成団体の活動紹介



2013年度に夏原グラントの助成を受けて行われた活動の紹介や成果を中心に、団体の思いや今後に向けての取り組みについて報告いただきました。新規22団体から始まり、継続2年目15団体の計37団体分を掲載しています。
それぞれの報告からは生き活きとした活動の様子だけではなく、団体の特徴や雰囲気などもうかがい知ることができ、また今年度から応募対象フィールドを京都府にも広げたこともあり、多様な方面で助成金を活かして下さっていることがわかります。左上には団体の概要も掲載しました。合わせてご覧ください。

昨年度から継続して採択された15団体の活動紹介は14ページからです。

認定特定非営利活動法人 びわこ豊穡の郷 守ろう赤野井湾！オオバナミズキンバイ除去大作戦

活動フィールド：滋賀県守山市 琵琶湖
所在地：滋賀県守山市
設立：2004年10月、2014年認定
会員：約300名
<http://www.lake-biwa.net/akanoi/>



「オオバナミズキンバイ」とは南米を原産地とする外来植物で、2009年に赤野井湾で発見されて以来、驚異的なスピードで成長を続け、現在夏場には赤野井湾ワンドの水路を覆いつくす程で、琵琶湖南湖のいたる所でも発見され始めています。このため漁船の航行に支障が出、魚が寄り付けず産卵もできない水域も出始めました。そこで豊穡の郷では、まずはボランティアの手で除去作業と拡散防止の呼びかけを行おうと、夏原グラントへの助成金申請を提出しました。幸いなことに、これを採択していただき、すぐに「オオバナミズキンバイ除去プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトには、地元自治会をはじめ、漁協、企業、環境保護団体、学生ボランティア団体の他に、守山市もメンバーに加わり、2013年は3回の大規模な除去活動の他、啓発パンフレットの発行など、多くの人を巻き込んだ活動を実施できました。

また、私たちが目標とした「特定外来種」指定の動きもあります。そしてこれらの活動が高く評価され、このプロジェクトが「しが生物多様性大賞 特別賞」を受賞しました。これからもチーム一丸となり「オオバナミズキンバイ」完全除去をめざし戦い続けます！

山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 天然更新試験地食害防止活動と植生調査

活動フィールド：滋賀県長浜市 山門水源の森
所在地：滋賀県長浜市
設立：2001年4月
<http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/>



山門水源の森(63.5ha)は、1960年代初めまで薪炭林として活用されてきました。この時代は、15～20年に1回のペースで皆伐が行われていました。この人の関わりによって生物の多様性が維持されてきました。しかし1960年代以降森林伐採が行われなくなり今日に至っています。この結果老木の増加に伴うナラ枯れ現象や、刈り払いが実施されない結果分布植物の種数も減少しています。この状態をかつての活力ある森に戻すため2011年秋、調査区(1900m)を皆伐し、再生の度合いを追跡調査しています。伐採前は51種であった植物が伐採後108種にも増加し本会の考え方が間違っていないことが実証されました。しかし、その後獣害(ニホンジカ・ノウサギ)に遭うこととなり、獣害の程度を調査する必要性に迫られました。2013年はその調査のため夏原グラントの助成を得て防獣ネットの設置及びビデオカメラによる撮影と植生調査(夏・秋の16日間)を実施し、防獣ネットの有無で著しい被植の違いがあること、ニホンジカは決まった個体群が、連日ほぼ同じような行動をすることが分かってきました(獣害の有無は3日に1回の頻度で現地確認)。この活動を通じて二次林の生物多様性保全には、人の関わりが必要であることが、地域住民や来訪団体に理解され啓蒙にもつながっています。このような調査を伐採期まで続けることによって、獣害と森林植生の関係を明らかにし、森林の生物多様性保全の方途を探りたいと思います。

おうみこっとな夢つむぎ

「綿づくり」を通して「人の輪」を広げよう

活動フィールド：滋賀県彦根市
所在地：滋賀県彦根市
設立：2009年3月
会員：
<http://oumicotton.web.fc2.com/>



澤代表が「衣類は全て石油から出来ている」との若者の言葉を聞いて始まった活動は、6年目になりました。休耕農地で地域住民やボランティアの協力を得て綿を栽培し、福祉施設に綿つみや綿くりをお願いしています。チラシ・HPで参加者を募集し、5月に種まき、10・11月に綿つみのイベントを開催して、参加者に畑で本物の綿に接してもらってから、野草や地元食材を使った昼食を食べながら交流し、綿くり・糸車・コースターづくり・機織りなどの体験をしていただいています。これらの活動は、この地域での綿づくりの復活による地域振興や地産地消、福祉施設の仕事づくりにつながっていると考えています。

助成金をいただき信頼も得て、スタッフも増え、HPも開設できました。東北に研修に行き、草木染のイベントを開催するなど活動も充実し、県内や県外の参加者や「綿の里親」も増えてきました。開催イベントや市民活動イベントへの出展等によって、綿の加工体験を通して綿への理解・関心を深め、環境保全に関する啓発・体験学習・ものづくり教育も積極的に行えるようになりました。

今後は、今までストックしてきた綿を糸や布に加工して、スタッフで工夫した綿製品を一層制作し、商品の販売を増やして、「おうみこっとな」ブランドの創造を目指していきます。

ウォーターステーション琵琶の会 ウォーターステーション琵琶の会 環境啓発活動事業

活動フィールド：ウォーターステーション琵琶
(滋賀県大津市)
所在地：ウォーターステーション琵琶
設立：2010年4月
会員：約70団体
<http://www.water-station.jp/relation/biwapar-ty.php>



ウォーターステーション琵琶の会は、琵琶湖、瀬田川、諸河川など水にかかわる環境団体、市民グループ、住民が出会い、繋がり、生まれた住民主体の会です。個々の団体やグループでは限界がある活動を協働することで、個々の活動を知ってもらい、発表の場を広げることで個々の発展につながると信じて活動しています。

今までどこからも補助金を受けず活動していましたが、今年度平和堂財団の助成を受け、広報の強化や内容を豊かにすることが出来ました。その結果、今まで実施していた親子で楽しみながら環境問題に関心をもってもらうイベント（夏休みの水辺の匠おもしろ体験、冬のクリスマスの集い、月例体験教室等）の参加者が倍増し好評を得ました。

これらのイベントをきっかけに、学校や子ども会などから新たに活動支援要請を受けるなど、環境への関心の輪が広がって来ました。今後更に環境問題を考える団体（イベント参加者に京都や大阪の家族づれも多く、県内のみならず淀川流域団体とも）との連携を深めて行きたいです。

ホタルの学校

みんなで守るホタルと川

活動フィールド：千丈川（滋賀県大津市南郷）
所在地：滋賀県大津市
設立：2003年4月
会員：大人約20名、子ども約20名



6月の「ホタル観察会」では、昨年の大雨の影響を心配していた子どもたちは、ホタルが変わらず発生したことに、生命力のすごさを感じていました。「千丈川のホタルを守りたい」という子どもたちの願いを受けとめて、ホタルの学校を開校したのは、今から11年前のこと。先輩たちは、すでに大学生や高校生になっていて、今年も「ホタル観察会」や「川の生きもの観察会」などに時々手伝いに来て後輩たちを指導してくれていました。また、生きもの観察時には、子どもたちは自主的にごみひろいをして、「ごみを捨てないで！」の手作りポスターも設置し、みんなで川を守っています。

秋の南郷学区文化フェスティバルでは、観察時の生きもの絵や感想文・ホタル観察記録・俳句・手作りクイズ等を展示し400人の人に見て頂きました。「ほたるの集い」でも多くの地域の方々に参加して頂き、ホタル保護に大きくつながる活動であったと思います。

淡海こどもエコクラブ活動交流会・近畿子どもの水辺交流会・琵琶湖博物館や地域等での展示や発表は、助成金を頂いたことにより、みんなで力を合わせて多くの展示物を作ることができ、より多くの場所で、より多くの人たちに活動を伝えることができました。

八幡山の景観を良くする会

竹林・コナラ林の整備とナラ枯れ地への植樹で里山再生

発活動フィールド：滋賀県近江八幡市八幡山
所在地：近江八幡市
設立：2005年3月
会員：約40名



八幡山は豊臣秀次侯の居城跡として、近江八幡のシンボルとも云える山ですが、近年麓の竹林やコナラ林が荒廃して、人も近づかない程薄気味の悪い場所になっていました。そこで2005年4月に当会を立ち上げて定期的に整備を進めた結果、昔のように小さな子供たちも含めて市民が親しめる明るく安全な里山に生まれ変わりました。整備された八幡山を市民に知ってもらい、より山に親しんでもらうため、毎年春には地元小学校2校の卒業記念植樹会、そして親子筍掘り大会を催し200名程の参加者が楽しんでます。また山の魅力を増すため、縦走路も同時に整備し、秋には親子八幡山縦走ハイキング会も催す等、市民が自然に八幡山に親しむ機会を設けています。

一方コナラ林ではナラ枯れの被害が急速に拡大し、行政の手で多くの被害木が伐採され、裸地が多くなってしまいました。そこで2014年3月に市民植樹会を開催し、夏原グラントの助成を受けて、コナラの苗木を100本、そして山の彩りを付ける為、ミツバツツジ30本を一斉に植樹しました。緑の少年団始め多くの父兄も参加して、かつてのコナラ林の復元を願って皆で汗を流しました。作業回数も190回を超え延べ4800人が作業参加いただいています。今春から10年目となりますが、これからも地道に整備を進めて参ります。

特定非営利活動法人 フロンティア協会

京都の源流域を守る会

活動フィールド：京都府賀茂川・上桂川の源流
所在地：京都市右京区
設立：2003年06月
会員：
<http://www.nethousing.co.jp/frontier>



1200年以上の京都の文化を支え、幾多の歴史に登場している、賀茂川・桂川は、人の営みにとって欠かすことのできない河川です。京都や集落を今まで育み紡いできたのは、豊かな水源と森の恩恵です。その大切な源流域は、木材価格の低迷と、高齢化（45%）、獣被害などにより、過疎化が激しく、当該地の森林面積（約72%）の水源の森は荒廃が止まりません。

本事業の特徴は、広範で多数の団体が参画していることです。「川上」の活動団体が連携を図り、「川下」の住民に呼びかけることにより、源流域の再生、活性化に役立つよう、11回の事業、延べ611名の参加を得て実施しました。9月は、台風被害のため中止になりましたが、一様の成果を得ることができたと思います。

京都・立命館大学をはじめ、大学や地域住民、環境保全団体の参加との交流は、源流域にとって、明るい未来へと繋がる一歩と思っています。

「環境保全」から「まちづくり」へと繋がる活動は、広義には「人づくり」です。地域の方たちは、学生や若者が参画することで、活性に役立つことも確信されました。助成金は、子どもから大人までを対象とした新しい未来を展望できる啓蒙啓発に活用しました。

余呉トレイルクラブ

余呉トレイル林道整備事業

活動フィールド：滋賀県長浜市余呉町
所在地：ウッドパル余呉（滋賀県長浜市余呉町）
設立：2009年5月
会員：約40名
<http://woodypal.jp/yogotrail>



余呉の山々は、かつては林道が整備されており、林業や物流に様々な恩恵をもたらしていました。荒廃した林道を復活させ、この山々にある貴重な財産を多くの方に知ってもらうことや登山をするにあたってのマナー啓発を目的に整備事業を実施しています。

余呉町の93%にも及ぶ余呉の山々にはブナの原生林をはじめ、珍しい薬草や山菜が残っており、南にびわ湖、余呉湖、北に日本海を望むことができるハイキングコースとしても恵まれた環境を持っています。また、賤ヶ岳合戦の城郭跡、菅山寺等の歴史資源も豊富で、ツアーではこうした資源や歴史についても学びます。

整備の内容としては林道及び、ポイント箇所での下草刈り、倒木が林道をふさいでいる場合の倒木撤去、岐路では道標の補修や目印テープ付けを実施します。

この助成によって林道の整備が進み、多くのハイキング客に足を運んでもらうことができました。また、昨年は余呉の柘の木の大木が話題となり、さらに多くの方が山に興味を持ち始めておられます。今後も地元のグループと協議をしながら整備を進めて、より良い環境を次世代に引き継いでいきたいと思います。

深泥池池畔林研究会

京都市・深泥池における池畔林伐採実験のモニタリング

活動フィールド：京都府京都市北区 深泥池
所在地：滋賀県大津市
設立：2013年1月
会員：4名



生物群集全体が国の天然記念物に指定されている深泥池の南岸では、この数十年のうちに、薪炭利用の衰退に伴って常緑樹が繁茂し、本来の明るい水辺特有の生態系が失われていました。これまでに、常緑樹を部分的に伐採した地点が実験的に作成されてきましたが、当研究会では定期的なモニタリング調査を実施することで、生態系の回復過程を科学的に明らかにしてきました。夏原グラントの助成により、林床の植物相、岸辺の水質・水生生物相、トンボ相の調査を実施することができました。その結果、林床の植物相は伐採後わずか2年目にして急速な回復が認められることがわかりました。また、トンボ相の調査では、明るい環境と暗い環境が混在することでトンボの多様性が増加していることが明らかになりました。これらの成果は池の管理者である京都市に報告し、深泥池の今後の保全計画に活かされることになりました。

それぞれの調査には、地域の方々や学生さんにも参加協力していただき、地域での保全教育や環境意識の向上に役立てることができました。夏原グラントの助成によって調査器具を充実させることができ、多くの参加者に効率よく協力していただくことができました。

特定非営利活動法人ビオトープネットワーク京都

里山再生保全事業
(みささぎの森わくわくプロジェクト)

活動フィールド：京都府山科区 みささぎの森
所在地：京都府中京区
設立：2004年1月
会員：77名
<http://www.jca.apc.org/bionet/>



2013年度で3年目となった活動ですが、月2回の定例会の中で里山整備は枯倒木の間伐・集積、水路の清掃、通路の整備など、山全体の3分の1くらいに手を入れることが出来ました。それ以外の活動としては子供たちの里山体験の受け入れ、春と秋にフェスタなどを行いました。里山体験では子供たちに自分たちで間伐した竹を使い、竹筒ご飯やねじりパンを作ってもらいました。この時は夏原グラントの助成で揃えたナタやノコギリがとても役に立ちました。

フェスタは今回で春秋を通して6回目になり少しずつ定着して来ました。内容としては山で集めたフジツル・マツボックリ・どんぐり等を使いリースやクラフトを作ったり、竹の間伐材で弓矢を作的当てをしました。この時は助成金で工作用のグルーガンを購入させていただきました。

また、助成金でシイタケ菌をたくさん購入できたので、間伐材のホダギを50本以上菌付けすることができました。これがいずれ特産物の生産となるように努力していきたいです。他にも知識を深めるために里山講座や事例見学会等をしていますが、2014年度は夏原グラントの助成団体の中に先進事例がたくさんあるので、どこか参考にさせていただけるところへ見学に伺えたら、と考えています。

市民活動支援 レッツ栗東

里山保全及び山林資源の有効利用とその促進活動

活動フィールド：滋賀県栗東市
所在地：滋賀県栗東市
設立：2004年12月
会員：約40名



わたしたちは、故郷滋賀の山河を愛しマザーレイク琵琶湖の環境保全に資するため里山保全に微力を尽くしています。

とりわけ近年、放置されている竹林の問題がクローズアップされており、素人のボランティアグループとして取り組みやすい竹林の間伐を主に活動を展開しています。とは言え、手作業で各地に点在する竹林間伐に取り組むには、多くの人の支援がなければ何ともなりません。

そのためひとりでも多くの方に竹林の現状を知っていただく必要があります。ほんの50年前まで生活の中で貴重な資材として活用された竹の材料としての価値を再認識することを思い立ち、竹細工を始めました。更に世間により広くPRするため「淡海創美会創作工房展」として、ご要望を賜りながら県内各地で年間数回の展示会を開催して竹への関心を啓発しています。

清水山城楽クラブ

里山と遺跡のコラボ(木・愛LOVE) / 清水山でいくさサイズ

活動フィールド：滋賀県高島市新旭町清水山城
所在地：滋賀県高島市
設立：2009年5月
会員：
<http://www.eonet.ne.jp/~joraku-club-hy/>



清水山城楽クラブは滋賀県高島市新旭町に所在する国史跡、清水山城館跡を保全・活用する目的で平成21年度に発足しました。市民に身近な里山にある清水山城ですが、放置された里山林にあることからその魅力を十分に伝えきれていません。そのため、空間の環境整備を行うとともに、その魅力を多くの方に伝えるため、「いくさサイズ」をテーマに戦国山城の工夫を体験したり、里山の自然の良さを伝える体験型のウォークを3回(春の陣・秋の陣・冬の陣)企画・実施しました。

活動は保全が活用につながるよう努めています。戦国山城の遺構の顕在化のために間伐や下草刈りを行うとともに、間伐した木は活動やイベントの炊き出しのための薪に利用します。また、落ち葉かきで集まった落ち葉は焼きいもに、枝打ちしたヒノキの葉は狼煙(のろし)に利用します。

地域の歴史の継承や里山の保全は、継続して行っていくことが大切です。今回の助成により購入した新割り機や缶バッチ機をより効果的に活用し、多くの方が歴史や自然に親しむことができる空間、子どもたちのフィールドワークの場となるよう楽しみながら活動を継続していきたいと考えています。

湖北古民家ネットワーク

土から刈り取り土に還す～茅刈りでつなぐ
伝統的自然素材の資源循環再発見プロジェクト～

活動フィールド：滋賀県米原市伊吹山、長浜市
所在地：滋賀県長浜市
設立：2006年10月
会員：約30名
<http://cohokstyle.shiga-saku.net/>



優れた環境性能を有する茅葺きは、地域に根付いた伝統的な工法により、人間や自然、建物にストレスをかけることがありません。茅葺き民家を、現代に合わせた新たな形も取り入れながら次世代に継承したい、との思いで活動を進めています。今回の助成金事業でメインとなった「茅刈り作業」は、茅葺き職人と古民家の専門家を招き、茅の植生、刈り方や束ね方、保存の方法等について指導を受けながら実施しました。体験地の伊吹山三合目付近はかつての茅場であり、今では伸び放題となったススキが地面に当たる日照時間を減少させ、動植物の生態系のバランスを崩していました。

この度の助成金を使って広く実態をお伝えすることができ、また、専門家を招いての茅刈り体験が実施できたことにより、少しでも植生の復元や生物の多様性を取り戻すことができたと思います。そして、朽ちた茅を土に還し堆肥として再利用させることにより、資源循環を実感することができました。

さらに、「結い」(=地域社会の小さな集団の中で、労働力を対等に交換しあって共同作業を行うこと)の一員として体験を積むことで、「結い」の精神そのものを復活させ、新しい「結い」を形成させるための一助にもなりました。

しがの里山や川を美しくする会

和邇川流域の環境再生

活動フィールド：滋賀県大津市
和邇川や周辺の里山
所在地：滋賀県大津市
設立：2010年10月
会員：約110名
<http://shiganokai.web.fc2.com/>



びわ湖や比良山系の美しい景色が広がる滋賀県大津市北部(旧・滋賀郡志賀町)、昔からこの地に暮らす人々は、比良山系の山々を崇め、里山や川を大切に、びわ湖と一体となって暮らしてきました。

しかし高度成長の波は環境を大切にすることを忘れ、JR湖西線が開通し、自動車専用の湖西道路が出来、里山や棚田は宅地に変えられていきました。そして残土や廃棄物を積んだダンプカーがひっきりなしに通って行きます。和邇インター近辺の残土や産業廃棄物の山をみると、何とかしなければと思う次第です。川の浄化活動、緑化植花活動、里山保全活動等が、私たちの主な活動ですが、最近、巨大残土埋め立て計画が持ち上がり、頭を痛めております。

二ンビーは聞きなれない言葉かもしれませんが、「社会的には必要な施設かもしれないが、自分の近くは困る」という迷惑施設の総称で、和邇川流域には13か所以上もあります。ホテル、シジミ、アユが群がる昔の川を取り戻したいと活動を続けています。